

榛名神社社報

発行日 平成二十三年七月十五日
 発行所 沼田市榛名町二八五一
 電話〇二七八(22)二六五五
<http://harunanomori.com/>
 発行人 金子由紀子

榛名神社由緒記

御祭神

はにやまひめのみこと
埴山姫命 (生命守護・五穀豊穡の神)
 やまとたけるのみこと
倭建命 (開運・土地守護の神)

すがわらのみちざねのみこと
菅原道真命 (学問守護・災難厄除の神)

たけみなかたのみこと
建御名方命 (産業守護・健康長寿の神)

摂社・末社

おおくにぬしのみこと
大国主命 (商売繁盛・良縁結び・病氣平癒
 ・交通安全の神)

琴平宮・熊野社・稲荷社・産泰社・五柱社

厳島社・加茂社 面美様

元縣社・利根沼田総鎮守

沼田氏、真田氏・本多氏、黒田氏、土岐氏と代々の城主の崇敬を受け、その由縁の品々が今も保存されている。特に本殿は享禄二年(1529)沼田顕泰の建立、元和元年(1630)真田信之により改築され、豪華華麗な桃山文化を今に伝える。

社頭講話 II

トイレの神様

昨年流行った、植村花菜さんの歌、ドラマにもなりましたが、「トイレの神様」♪トイレには、それは、それはきれいな女神様がいます。それ、それはきれいな女神様から毎日きれいにしたら、女神様みたいにべっぴんさんになれるんですよ。;

トイレについて昔から言われていることは結構たくさんあります。

妊婦はトイレ掃除に励むとお産が軽くなる、よい子が生まれる。トイレに入る前に咳をしない。トイレの中の人を呼ばない。トイレの中の人を覗かない。裸でトイレに行かない。洗髪は髪のままトイレに行かない。トイレでつばをはかない。

トイレで頭をかかない。トイレで食事をしない。(去年のテレビで大学生がトイレで食事をしている特集をやっていたことを思い出しました)現代のトイレは水洗式がほとんどなので、トイレ掃除も苦にならないですが、昔は汲み取り式のトイレだったので、くさい、汚い、暗い、本当に大変な作業だったと思います。しつけのためや、大変なトイレ掃除をさせるための取っつけた謂われにも思えますが、それだけではないのです。では、トイレの神様って、どんな神様なのでしょうか?

日本の歴史を語る上で大切なものは、言うまでもなく記紀。古事記と日本書紀です。伊邪那岐命伊邪那美命の間に生まれた神様の中で、伊邪那美命が最後に産み出した神様、火の神様(火之迦具土神)をお産みになったために、ホト(女陰)を焼かれてお苦しみになり、糞からなり出たのが、埴山姫神、尿からなり出たのが、水波能売神といわれています。この二柱の神様が、廁の神となりました。伊邪那美命はそれをもとで亡くなつてしまい、黄泉の国へ行つてしまわれ、伊邪那岐命は怒つて、火之迦具土神を十束剣で殺してしまします。

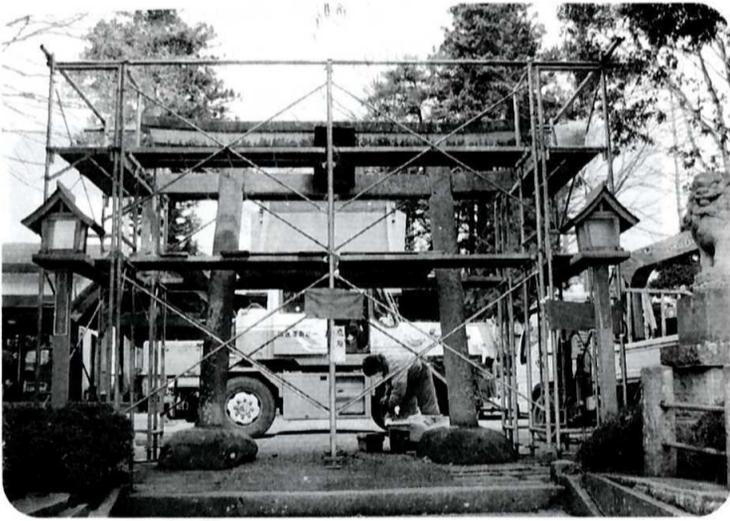
トイレの神様に戻ります。榛名神社には面々美様とよばれるめずらしい線彫りの石があります。その顔を撫でた手で撫でると、美人さんになる、べっぴんさんになる、という言い伝えです。その像は、ご祭神の埴山姫神とも、普賢菩薩とも、文殊菩薩とも言われておりますが、とにかく、美人になるということ、たくさんの方がお参りに訪れます。面々美様の顔をなでて、どうして美人になるのか? 昨年のヒット曲が答えです。トイレには、それは、それはきれいな女神様がいます。

東日本大震災の被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げます

三月十一日午後、未曾有の大地震、そして大津波が東日本を襲いました。そして、それによる福島原発の事故。今も尚、たくさんの方々が苦しんでいらっしゃいます。亡くなられた方々、ご遺族に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災地

の皆様に心よりお見舞い申し上げます。神社もまた多くが被災しました。津波に流されたり、本殿が全壊したり、ご神体も流され、その土地の神職が関係者とともに、ご神体や流された宝物を探していたと聞きます。瓦礫の中に、神輿を発見したという報告もあるようです。また、被害の少なかった高台にある神社等は地域の避難所となり、氏子の人たちがそこで共同生活をしていようとす。

被災地を何度も訪問される天皇皇后両陛下や皇太子殿下・雅子様のお姿をテレビで拝見いたしました。天皇陛下におかれましては、去る三月十六日、国民に向けてのお言葉をビデオメッセージの形で語りかけられました。被災者の身を案じられ、救援関係者を労われ、希望を捨てず、苦難を分かち合つて乗り越えることを願われました。陛下はまた「皆が相携え、いたわり合つて、この不幸な時期を乗り越えることを衷心より願っています」との御言葉を述べられました。そして、「被災者のこれからの苦難の日々を、私たち皆がさまざまな形で少しでも多く分かち合つていくことが大切」と広く国民に呼びかけられました。たとえ国家が危機にあつても、秩序を守つてこの国と国民をまもる、心の柱となつていのはまことに皇室の存在であると、陛下のおことばに、ありがたさを改めて感じさせられました。

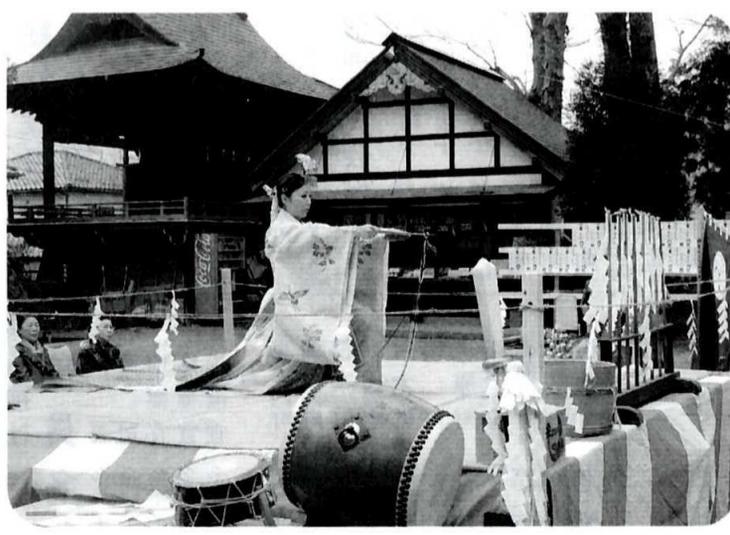


【東日本大震災の地震により被害を受けた境内の石の鳥居の改修工事】

の避難の様子を描いた物語があり、その後長く記憶に残ったことでした。津波であれ、洪水であれ、平常の状態で崩れた時の自然の恐ろしさや、対処の可能性が、学校教育の中で具体的に教えられた一つの例として思い出されています」と御回答をされた日本人の公徳心を養う教科書はすべて消されたというGHQにより、削除されてしまつたようですが、今この大震災において、外国のメディアに多く取り上げられ、賞賛された、礼儀正しく、秩序を守る日本人らしさは、今も尚、日本人の中に受け継がれているのでしよう。しかしながら、現代の子供達にも、ぜひとも、こうした公徳心あふれる物語を読んでほしいものだと思つて感じました。

ここ沼田市に目を向けると、屋根瓦が落ちてしまった家や灯籠が倒れたところはありましたが、地震による被害も甚大でなく、また計画停電のグループにも入らずにこれまで過ごすことができましたが、榛名神社においては、境内の石の鳥居のずれが大きく、緊急修理を余儀なくされ、修理を致しました。

四月八日の例大祭は、自粛ムードの中、当初は太々神楽や浦安の舞は慎むべきとの観もありましたが、こういふときこそ、心を合わせて神様に日本が穏やかな本の国振りに戻ることが出来るように、そして被災地の人々をはじめ、この国に住む人がみな平和に安心して暮らすことが出来るように祈り、例大祭をお勤めすることが大切と考え、人々が力を合わせて日本の復興に取り組むことをお祈りし、お誓いして、心をこめてお祭りをご奉仕致しました。(境内での抽選会等は自粛いたしました)



【がんばろう日本 大震災の被災地の復興を祈願して 浦安の舞の奉納】